

初心勿忘・原点回帰

西日本図書館学会
大分県支部長 石川 賀一

2013年の春、別府大学への赴任が決まり、約10年間住み続けたつくばを離れることになった。徹夜でアパートを片付けた私は、愛着ある関東平野の東雲（しのめ）を背に、オンボロ愛車を西へと走らせた。はじめはいつもの「旅に出る」感覚が抜けなかったが、フェリーの甲板から朝日が差し込む別府のまちを眺めたとき、ひとつの思いが胸にこみ上げてきた。「何も知らないまちだけど、私はここで生きていくのだ。」そう実感させたあの情景は、今でも鮮明に思い浮かぶ。

あれから2年が立とうとする2014年の冬。その頃には授業や学務にも慣れ、地域の図書館関係者の方々ともつながる機会を得られるようになっていた。そんな矢先、西日本図書館学会大分県支部長の大役を預かることになった。元来、着の身着のまま、群れを好まない一匹オオカミ気質（実際はノラネコ気質）だった私には、肩書きそのものが重圧であり、余計なものであった。

そして迎えた3年目の2015年は、西日本図書館学会秋季研究発表会の事務局、杵築市の新図書館建設検討委員会の委員長、さらに2年間刊行されていないJUNTO CLUBの編集など気の抜けない日々の連続で、これまでのノラネコ気質がいかに恵まれた環境で成り立っていたのかを痛切に感じた1年となった。その一方で諸先輩方から九州における司書養成の歴史、西日本図書館学会の発足にまつわる話を耳にする機会にも恵まれた。これらの原点である「図書館を通じて地域を支える」という精神は、私にとって大きな励みとなった。

そして三十路ともオサラバする2016年、改めてフェリーでの高ぶりを思い返した。この3年間は「なんとかこの地に足をつけなければ」と試行錯誤を重ねた期間であり、これからが本当のスタートであると考え。人は思いだけでは成長できない。しかし、信念として行動すれば何か

(Something else) が得られるはずである。初心を忘れず、そして本学会の精神を胸に自覚をもって取り組んでいきたい。

まだまだ至らぬことがあります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。